

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Phone 045-894-7474

四方山話 その3

前回の、マツ材(炭)が燃料として活用された話の続きを紹介します。

3、製瓦の話

屋根瓦は和風建築に欠かせない資材です、粘土瓦の年間総出荷数はおよそ10億2,400万枚(平成15年)です。

京都の東大寺大仏殿は建久6年(1195)に再建されたのですが、この時に使用された7万枚近いと推定されるいぶし瓦は愛知県渥美町(今の田原市)の東大寺瓦窯で作られました。黒瓦はいぶし瓦とも呼ばれ、瓦を焼き上げる最終段階でマツ葉やマツ材を窯に投入し、空気を絶った状態(還元炎焼成)で燻して焼き上げます。燻すことにより、炭素が瓦に固着し、見事な黒色(いぶし銀)の瓦となり、表面が一様に気密となって雨水の浸透防止効果も一段と高まります。今では、ブタン(燃料原料のバラフィン炭化水素の一種)を使い炭素粒子を固定する方法なのですが、愛知県高浜市の(有)窓清の神谷さんは松脂(ロジン)を使いいぶし瓦作りを考案しました。顕微鏡写真でみると、松脂を使用した瓦の出来映えが最も優れているといえます。独特の輝きを放ついぶし瓦は、こだわりの一品として根強い需要があります。「愛知県林業史」の中で、瓦1000枚の焼成に必要なマツの薪は32.7m³と推定しています。マツ林面積に換算して0.78haとなり、愛知県三河地域は全国で最大の瓦産地であり、興味深いことに、昔から瓦の製造工程はほとんど変わっていないとのことは、渥美半島のマツ林が皆伐されたことになりそうです。

4、窯業の話

窯業にとってもマツは重要な燃料でした。佐賀県林業史をみると、有田焼の名門、酒井田柿右衛門家の文書には、「一窯について割木およそ一万本」という数字が出ています。マツ割木は焰が長く燃焼後に出る灰の量が少ないので窯業燃焼としては最も適しており、とくにマツ割木のなかでも樹脂分の多いアカマツ材がよいとされました。実はマツ割木を使用する伝統は現在でも備前焼など各地の窯元に継承されているのです。登り窯の焚口(四連～五連)で、アカマツの大割(長さ60cm、たて×よこ10cmぐらい)を少量ずつゆっくり時間をかけて4～5日間焚き続けます。これを「あぶり」といい、温度は500度前後になっています。あぶりから3～4日後、上の焚口から「中焚き」をします。投げ入れる割木の数は大割12～15本、温度は1100度位になっています。その後さらに3～4日、割木の数を調節しながら1200度を上限にして1150度前後の温度を維持します。最終段階で何度かの「大焚き」(一度に、100本位の割木を投げ入れる)をやり窯変(火焰などにより素地に生じる変色やゆがみ)により様々な変化を生み出します。備前焼にはマツ割木の灰が釉薬となり素地に降りかかってできる胡麻とよばれる作品があります。温度差で灰の溶け具合も異なり、流れ胡麻、黒胡麻など数種類の作品ができるそうです。燃え残ったマツはいは人為的に振りかけて作る。かけ胡麻という作品にリサイクルしています。大窯には約5,000点の作品が詰められ、全ての窯焚きにかかったアカマツの割木は、焚口で焚く大割8,400本(6本×1,400束)、2番窯、3番窯で焚く小割(長さ60cm、たて×よこ4～5cm位)4,000本(16本×250束)合計で約12,400本です。備前焼窯元では年に6～7回焼くそうです。この割木を生産している大手は広島県にある佐々木林業です。マツ割木には品質等級があり、肥松(こえまつ)とよばれ、心材部が赤味を帯びた割木がこのまれます。

この原稿を製作中に、アカマツ林がまたなくなるのではないかと心配です。

「松」に関するこぼれ話を、次回も頑張るので楽しみにしてください。

杉戸正直

1. 10月の主な活動内容

- ① 9月24日(水) 7名:炭焼体験会準備
- ② 9月27日(土) 18名:炭焼体験会(本窯・ドラム缶窯)、炭小屋下斜面地植生調査、製材、ZFC通信印刷・発送
- ③ 9月28日(日) 10名:炭焼体験会(本窯閉め)
- ④ 10月1日(水) 4名:炭小屋補修
- ⑤ 10月4日(土) 13名:池の上クヌギ林草刈り、炭だし、炭小屋補修
- ⑥ 10月8日(水) 9名:雑木伐倒、栄高校三世代交流会打合せ、炭小屋補修
- ⑦ 10月11日(土) 13名:シラカシ伐倒後片付け、池の上クヌギ林草刈り
- ⑧ 10月15日(水) 7名:間伐材整理、東京ガス社員炭小屋見学(含む10月17日)
- ⑨ 10月18日(土) 7名:池の上クヌギ林草刈り、ゴロ報印刷、運営会

2. 運営会の報告

- ① 11月6日栄高校三世代交流会の担当者の最終確認を行なう。
佐野、吉田、藤原、大越、張間、山田、関根
- ② 「スプリングフェア」について11月よりアイデア検討等具体的な準備を開始する。
- ③ 「上郷市民の森」の杉、ひのきの搬出、搬入を12月上旬に実施する。(全員作業)

3. 11月活動予定

- ① 10月19日(日) 森ボラ幹事(草刈り)
- ② 10月22日(水) クヌギ林斜面地草刈り、ドラム缶窯修理
- ③ 10月25日(土) 炭小屋下斜面地植生調査、ドラム缶窯修理、ZFC通信印刷発送、安全教育
- ④ 10月26日(日) 森ボラ祭り参加
- ⑤ 10月29日(水) ドラム缶窯修理(最終)・空焚き
- ⑥ 11月1日(土) トウネズ・ヤマモモ(アラカシ林)伐倒、講演会(アライグマ防除・13時～15時30分)
- ⑦ 11月5日(水) トウネズ・ヤマモモ伐倒後片付け、栄高校三世代交流会事前準備
- ⑧ 11月6日(木) 栄高校三世代交流会(12時30分集合)
- ⑨ 11月8日(土) トウネズ・ヤマモモ(アラカシ林)伐倒
- ⑩ 11月12日(水) 同上後片付け
- ⑪ 11月15日(土) トウネズ・ヤマモモ(アラカシ林)伐倒、運営会
- ⑫ 11月19日(水) 同上後片付け
- ⑬ 11月22日(土) 森の作業体験(草刈り)・安全教育
- ⑭ 11月26日(水) 竹林整備(下見)
- ⑮ 11月29日(土) 竹林整備

以上